



SORADIA'

Socialites Travel Media

[ソラディア]

タカラモノ探しの旅へ

ハイセンスに地球に  
配慮して暮らす  
プレミアムマガジン

2010/08 30 August  
神戸・大阪・京都版 vol. 30  
[ソラディア] 2010年8月 第30号

S Web 読者の情報がイッパイの  
SORADIA' ホームページも随時更新中!!  
www.soradia.com  
すぐにアクセス!



すべてのものに愛を。

SORADIA'  
We love the Earth

8/10(火) ハトの日Specialイベント開催  
第3回「Peaceful Night in Kobe」  
1部/岡野弘幹 Charity Live  
2部/Charity Auction Party

# BALI SELF RECON NECTION

自己の深遠と繋がる旅へ

単なる観光に終わらない“自分再確認の旅”  
バリで活躍する日本人オーナーに聞く“バリの魅力”

UBUDのラグジュアリーホテルに泊まる  
Amandari & Four Seasons

SORADIA' が今最も注目するNEGARA エリア最新情報



RED CARPET  
in KOBE

特別御招待

9月3日 「食べて、祈って、恋をして」 Premium Preview  
9月10日 「Special Bali Night」@La suite Kobe Harborland  
SORADIA' の提案する新しい旅の形を発表  
第1弾バリの最新情報、バリ島行き航空券プレゼント、SORADIA' 特別モニターツアー

Negara Project Party  
in Tokyo Report  
9月10日 大阪説明会開催



地球上での生活をもっと豊かにする  
SORADIA' PREMIUM会員募集中

Ethical  
Style

全ての存在するものを永く愛し続けるため、「与奪のバランス」を大切にしたい。  
大地に足をつけながら、余裕をもってお洒落に「旅・食事・生活」を楽しむことが  
新しい未来につながる。ソラディアはそんなライフスタイルを提案しています。

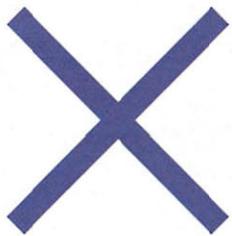
SORADIA' が 毎月毎月、自宅に届く!!!  
年会費3,000円でSORADIA' が毎月ご自宅に届きます。  
詳しくはwebをご覧ください。

# SORADIA' SPECIAL INTERVIEW

## SLH加盟記念特別対談

ホテル ラ・スイート神戸ハーバーランド  
総支配人

檜山 和司



ソラディア編集長 西川まなぶ

～2010年7月2日ホテル ラ・スイート神戸ハーバーランド ラ・レーヌスイートにて～



WELCOME MESSAGE From Paul Kerr (SLH, CEO)  
SLH 最高経営責任者ポール・カー氏より、歓迎メッセージ

スモール・ラグジュアリー・ホテルズ・オブ・ザ・ワールド (以下SLH) は、日本で3軒目の施設となる「ホテル ラ・スイート神戸ハーバーランド」が新しくSLHブランドに加盟されたことを非常に喜ばしく思います。SLHは世界中の個性豊かな独立系小規模な高級ホテルと、高い水準のサービスを提供することに誇りを持っていますが、洗練されたデザインと素晴らしいスパやレストランを兼ね備えている「ホテル ラ・スイート神戸ハーバーランド」も、もちろん例外ではございません。SORADIAの読者の皆様にも、素晴らしい体験ができる「ホテル ラ・スイート神戸ハーバーランド」を、自信を持ってお勧めいたします。



檜山和司 PROFILE

神戸市生まれ。25年を超えるホテル勤務の間に三ツ星レストラン「アラン・シャペル」、「ラ・コート・ドール」に13年間在籍。また、プロトコルやパーティーの基礎は、「オテル・ル・テシア」(パリ)にて学ぶ。1996年第一回日本メートル・ド・テル コンクールに優勝し、日本最優秀メートル・ド・テルに選ばれる。



オープン当初より、ホテルとしてのポテンシャルと経営意識の高さに感銘を受け、様々な形でご紹介をし、またイベント等で協力をいただいていた「我がラ・スイート」が、日本のホテルとしては、初めてSLHホテルに加盟した。世界のラグジュアリーな方々の間で評価の高いこのSLHグループに加盟が決まったことで、今後世界中の富裕層をゲストとして迎えることになる。これはホテルにとってはもちろん、神戸市の観光ビジネスにとっても大きな意味を持つことである。今回は檜山総支配人を訪問し、これからの展望を踏まえ、お話を伺ってみました。

「二期一会」といいますが、毎日が運命の出会い、巡り合いと感じています。  
「今日はどんな方とお会いできるのだろうか？」と全身全霊、感謝の気持ちでお迎えしています。(檜山)



N — あのジャグジーは、本当に身体が解れます。開業当初、初めて泊らせて頂いた時に、泊まる事に物凄く集中されているホテルだな

H — 加えて、ジャクソン製の高級ジャグジーが全ての部屋に入っているのは、世界でもほとんど例がないでしょう。

N — 確かに、全室オーシャンビューで、各部屋に設けられた開放的な広いテラスは非常に気持ちいいですね。

H — はい、最寄駅からは徒歩10分以内です。神戸空港や新神戸からでも車で15分という至便な立地にありながら、一歩中へ踏みこむと本格的なリゾート感覚が感じられる点も珍しいのではないですか。

N — そうですね。この規模に対して、これだけ豪華な設備を誇るホテルは、神戸に限らず日本国内を見回してもそうそうないですね。

H — はい、最近ビルの一隅をホテルにしているところが多いですが、ここは神戸の二等地にあり、土地も建物も運営もすべて自社で行っているという点。また、「地中海リゾート」を運営させるような...。海に面してモノコブやニースにあるラグジュアリーホテルのような佇まいを見せ、連泊しても飽きることがない客室設備や施設を備えた「滞在型リゾート」を体感して頂けるという点が、他のホテルとは異なる特徴です。

N — そうですね。この規模に対して、これだけ豪華な設備を誇るホテルは、神戸に限らず日本国内を見回してもそうそうないですね。



...という印象を受けました。日本のラグジュアリーホテルは海外に比べて、宴会やウェディングに比重を置き、宿泊が二の次になっているところが多い。私は個人的には宴会、ウェディングはホテル利用の二次的なもの、要するにホテルを宿泊や食事で利用された方が、ファンになって宴会(特にウェディング)利用をするというのが、本来のホテルの利用法だと思っています。こちらは「ゲストの方にどう泊まって、どうレストランを楽しんで頂くか」という部分に徹底的にこだわってつくられたホテルだなと、「これはこれまで日本にはなかったぞ」と衝撃を感じました。

H — ホテルにも色々なタイプがありますが、ラ・スイートは、本物を追求しようという姿勢で始めています。日本にあるラグジュアリーホテルは外資系が多いですね。その点を留意し、日本らしいおもてなしと本格的なホテル設備を備えたラ・スイートというブランドを輸出していきたい。と願っています。

N — なるほど。具体的にはどんな点でしょうか？

H — 料理もできる限り地元産の食材の地産地消を心掛けています。昔、ジョエル・ロブション氏と一緒に仕事をしていたことがあるのですが、彼が「ティナーは最多でも50食しか提供しない。なぜなら、それ以上はクオリティの保証が出来ないから」と話されていました。ホテルに置き換えても、行き届いたサービスを提供しようとする、やはり70室が限度かなと思いき、客室数70室にこだわったのもそういう理由からです。また、昨今ホテルは経費縮小傾向にありますが、本来のホテルのあるべき姿に立ち返り、自宅に客人をお招きするのと同様、生花を飾ったり香りの演出を行って、皆様をお迎えしています。

N — 「音楽と香り」と花でお出迎え」というのが、そもそものテーマでしたからね。

H — はい。客室に流れているワルカムミュージックも神戸の港をイメージし、潮騒や船の汽笛が入ったオリジナルのものを用意しています。

N — では、総支配人がホテルの中で、特に好きな場所や時間はありますか？

H — 全部好きですが、敢えて言うなら、朝と夕暮れ時のテラスが好きですね。特に朝、テラスに立つと朝日のエネルギーを受けてパワーをもらえます。滞在される方にも、朝日で目覚め、夕暮れ時には黄昏てクールダウンしてから、ティナーをお召し上がり頂くという過ごし方をお薦めしたいです。

N — それは最高ですね。各部屋のテラスも2階のテラスも非常に気持ちいいですね。



H — はい、部屋のテラスからの眺望には気を遣っていますし、廊下も客室に入る際に隣室からは見えない設計になっていて、徹底してプライバシーを配慮しています。



## SORADIA' SPECIAL INTERVIEW / SLH加盟記念特別対談

### 応募方法

会員の方はお名前と今回の中で最も面白かった記事と面白くなかった記事を記入いただいてソラディアまで。会員でない方は会員登録申し込みをされてからご応募いただくか、会員になれない方は住所、氏名、年齢、電話番号、メールアドレス、今回、一番面白かった記事と面白くなかった記事を記入の上、下記までご応募ください。応募締め切りは、8月31日(火)まで。  
※当選者の発表は、商品の発送をもって代えさせていただきます。  
〒芦屋市東山町8-12東山荘2階西 SORADIA' プレゼント係 または、info@soradia.com



これからのラグジュアリーホテルには、  
滞在中の独自のエクスクーリションなどもプログラミングして、  
旅行社の役割も担うことが求められていくと思います。(西川)

N — それは全く気付きませんでした。そういうのはそうなんです。

H — 全空スリムダイキのアクセスもその理由の一つですが、日常生活を忘れてゆつりと週末リゾートが楽しめる環境を整えています。

N — 支配人が一番好きな客室はどこですか？

H — 私は911号室の「グレース・スイート」が一番好きです。白を基調としたこちらの客室はリビングルームには和室もあり、テラスも68平米と非常に広いので、「グレース」という名前の通り気品があり、ゆつたりしているのが、ルームサービスを頼んで、ちよつとしたブライベートパーティーを開くにも打つつけの部屋です。

N — 日中はホスト・バーティーを開いて、ホストはそのまま宿泊するという利用方法は面白いです。ではダイニングの「ル・クール」と「心」のお料理に関してお聞きしたいのですが？

H — レストランでは、「兵庫のテロワール五国の味めぐり」として、一定周期で替わるメニューを出しており、お客様に地元食材のおもてなしと、その土地の生産者を応援しようという意味が込められています。7月・8月は淡路で、9月からは丹波がテーマです。

N — 私も何種か頂きましたが、あれは新鮮で面白い試みです。それ、朝食も毎回の楽しみの一にしています。

H — 朝食はボリュームもあり、非常に人気があります。数量限定でお出ししている和食も「旅館並みですね」と言われるほど好評いただいています。

N — ワインのコレクションも豊富ですね。

H — はい。珍しいビンテージも揃えておりますし、かなりリーズナブルな値段でお出ししています。特に現在はSLHに加盟した感謝の意を込めて、通常よりさらに安く提供しています。

N — では、総支配人がゲストの方をお迎えするにあたって、心掛けていらっしゃることはありますか？

H — 「期会」といいますが、毎日が運命の出会い、巡り会いと感じています。「今日はどんな方とお会いできるのだろうか」と全身全霊、感謝の気持ちでお迎えしています。

N — しかし、なかなか全員の方とお会いするのは難しいですよね。

H — そうなんです。ですので、チェックインからチェックアウト、レストランやラウンジなど、できる限り色々な場所に足を運ぶようにしています。中には「総支配人自らお見送りなさるのですね？」と驚かれる方もいますが、ヨーロッパではレストランのメーテル・ドテルもホテルのGMでもお客様をお出迎えしてお見送りする習慣は当たり前なんです。

N — 外国ではGMがゲストのスケジュールを把握されていて、レストランで食事をしていて「今日のエクスクーリションはどうだった？」とか「ここに行ってみると、面白いよ」とか気さくに話しかけて下さると、「一人ひとりきちつと見ていて下さるんだな」と物凄く嬉しいですし、また、訪れたいなという気分になります。

H — どうしても計数管理に長けた方がGMになる事が多いですが、お客様と接する現場に真実があると思うのでデスクに座ってばかりおらず、積極的に出向くようにしています。

N — 様々なイベントも開催されていますが、夏から秋以降のお薦めはありますか？ 支配人のマナー講習も人気らしいですね。

H — 本で読んで覚えた内容もありますが、フランスでの実体験を元に自分が吸収した国際儀礼を、ホテルの施設を使ってお伝えできるので好評いただいています。また、フード・コラムニストの門上武司氏さんが司会進行を務め、長野のマンズワイン副社長で国内有数の醸造学に長けた茂木信三郎氏とドイツの名門マチュールシカ伯爵にお越しいただくテスティング・ディナー(9月8日(水)19時)はお薦めです。秘蔵ワインも多数でできますし、ワインの生産者と醸造されている方の意見が聞けるので奥が深く、楽しめると思います。

N — では、これまでに迎えられたゲストの方の思い出に残っている場面や言葉などはありますか？

H — 開業当初、ノベル財団のノベル様がお泊まりになり、「数え切れないほどのリゾートタイプのホテルに宿泊してきたが、ここはパーフェクトだ」と、感激のあまり率先してゲストブックにサインをしてくださったことがありました。世界トップクラスの方にお褒め頂けると嬉しく、励みになります。最近では、旅行サイトの口コミランキングで近畿北陸のなかで長らく一位の評価を頂いており、お客様に満足していただけていることはありがたいです。

N — 総支配人が海外と国内でお好きなホテルや旅館はどこですか？

H — やはりフランスで働いていたこともあり、リッツやフォアシーズンズ・ジョルジュサンク、クリヨンといった、伝統があり更に磨きを掛けているようなホテルが好きです。

N — クラシカルなホテルが多いですね。国内はどこですか？

H — 上質なホテルは沢山あり、良いとは思いますが、これぞ……というホテルはなかなか思いつきません。

N — SLHに加盟したことで、今後どんな風に変わっていくと思われませんか？

H — 海外の富裕層の目に留まるわけですから、目の肥えた方に使って頂いて、どんどん磨いていく。ラ・スイートを更に上のランクにもっていきたいです。これまでとは違った予約の仕方やリクエストが生まれつつあるでしょうし、滞在中の「から十まで」をアテンドできるような体制を整えています。

N — 海外のハイエンドの方々には旅行社を利用されないトラベラーが多いと思うので、これからのラグジュアリーホテルには、滞在中の独自のエクスクーリションなどもプログラミングして、旅行社の役割も担うことが求められていくと思います。また日本は外国のハイエンドの方々をお迎えできる土台が整備されていまして、今後ラグジュアリーにおいても、外国のハイエンドの方々をお迎えするにあたって、行政と一緒に、なつてそういったプログラムを組んでご提案していくような事業スキームを検討しています。

H — 神戸空港へプライベートジェットで来られたり、リムジンでの移動等、本日のラグジュアリー層を迎えるための万全の対応を準備しています。

N — では、ソラディア読者に総支配人からプレゼントをお出し頂けませんか？ また、メッセージがあればお願いします。

H — はい、「グレース・スイート」の宿泊券をプレゼントします。ラ・スイートはオシャレなパーティーを開催し、皆様が集まって頂いて、ここから芸術や文化を発信していきたいと思っています。これからも皆様にとどまらずにご利用して頂きたいと願っています。

N — ソラディアとしても、これからも一緒に盛り上げていきたいと思っています。本日はありがとうございました。

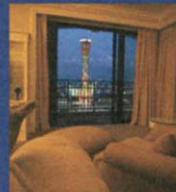
H — ありがとうございます。



### 編集長の STAY REPORT

#### 「日本発の世界に誇るホテル」が誕生する予感に胸躍る 911号室の「グレース・スイート」+鉄板焼き「心」

オープン当初、私はこのホテルが目指す「ホテルの本来の姿に立ち返ったスタイル」に非常に感銘を受けたのを覚えている。訪れるゲストに喜んでいただくため「料理、部屋、リラクゼーション施設は直営で」というスタイル……。ホテルでありながら旅館のような「おもてなしの心＝日本の心」を持つことをこのホテルのフィロソフィーとしようというオーナーの気持ちを感じ取れたのである。だから滞在をしながら、ラグジュアリーな異空間でありながら、どこか気持ちがよいのである。今回は総支配人お勤めの部屋に泊めていただいた。こちらのホテルにはほぼすべてのタイプの部屋に泊めていただいたと思うが、この「グレース・スイート」は素晴らしい。神戸港に突き出すようにつくられたテラスに座ってゆつりと時間を過ごすのを楽しんだ。鉄板焼き「心」では、8月末まで淡路の夏の食材を使ったコースがおすすすめだ。料理長の下木さんに、食材についていろいろ教わるのも楽しみのひとつである。ワインは9月30日までロス・チャイルド・フェアが開催されている。ロスチャイルドといえば「シャトー・ムートン・ロートシルド」であるが、今回はロス・チャイルドが世界で手がけるワインが集結した。特にシャンパンのバロンド・ロスチャイルド(Bottle 12,000円)がおすすすめである。夏はすっかりと、初めから最後までシャンパンで通すというのも粋な楽しみ方である。デザートはラウンジでいただいて、食後に一杯……。部屋に戻って、ゆつりとジャグジーで疲れを癒し、911のテラスで神戸港の夜景と一緒に飲みながらである。



slh.com

## Small Luxury Hotels of The World (SLH)

### スモール・ラグジュアリー・ホテルズ・オブ・ザ・ワールド

世界75カ国500軒を超える独立系の小規模かつ高級なホテルで構成され、個々の土地を優雅に楽しめる多彩なホテルを取り揃えたホテルブランド。お客様のおもてなしと、ブランド品質維持を最重要視し、SLHへの加盟を希望するホテルの内、応募総数の僅か5%という厳格な審査基準をクリアしたホテルのみが加盟を認定され、日本ではここ、ラ・スイート神戸のほか2軒のみが迎え入れられている。最近ではホテル検索や予約にとどまらず、旅行のプランニングや滞在先でのナビゲートが手軽に楽しめるiPhoneとiPad向け無料アプリケーションの配信も開始され、現代人のライフスタイルに適した便利なサービスも提案している。 TEL.0120-558-673 www.slh.com



The Fortress, Sri Lanka



Pimalai Resort & Spa, Thailand



Sun Rocks, Santorini, Greece



Can Bonastre Wine Resort, Spain